

平成 27 年 2 月 27 日



(報道タイトル) シンポジウム にし阿波を世界農業遺産にする：
世界遺産観光による地域づくりの可能性の開催

徳島大学と徳島剣山世界農業遺産推進協議会は、にし阿波地域でおこなわれてきた伝統農業の世界農業遺産登録と観光化をめざしたシンポジウムを開催します。

(報道概要)

世界農業遺産(GIAHS)とは、国連食糧農業機関 (FAO) が世界的に重要な農業システムを認定する仕組みです。にし阿波地域では、古くから斜度 30度を越える急傾斜地において、風雨による土壌流亡を防ぎ、持続的な土地利用を可能にするためのユニークな農耕システムが営まれてきました。本学は平成26年度より、にし阿波（つるぎ町・三好市・美馬市・東みよし市）にみられる傾斜地農耕システムを世界農業遺産に登録するために支援をおこなってきました。今回は、平成29年の登録および登録後の観光振興を実現するための行政・企業・地域・大学による連携体制の構築を目指したシンポジウムを開催いたします。

タイトル：「にし阿波を世界農業遺産にする：世界遺産観光による地域づくりの可能性」

日 時：2015.3.6（金）14:00-16:30

場 所：つるぎ町農業改善センター3F

講 師：永田明（国連大学）、内藤直樹（徳島大学）、山泰幸（関西学院大学）

パネリスト：出尾宏二（一般社団法人そらの郷）、篠原尚志（つるぎ町）

参加予約：不要（入場無料）

詳細・プログラム：別添資料をご参照ください。

お問い合わせ：つるぎ町役場商工観光課

TEL 0883-62-3111

E-mail syoukou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp

部局名 総合科学部

責任者 内藤直樹

担当者 内藤直樹

電話番号 088-656-7141

メールアドレス naito.naoki@tokushima-u.ac.jp

世界農業遺産

徳島・剣山の傾斜地農耕システム

をめぐす

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



にし阿波を世界農業遺産にする ～世界遺産観光による地域づくりの可能性～

2015.3/6 **金** 14:00～(受付:13:30)

会場:つるぎ町農業改善センター3階

13:30～受付

【第1部】

14:00～14:10 ごあいさつ: 藤西 茂 (徳島剣山世界農業遺産推進協議会 会長、つるぎ町長)

題旨説明: 内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

14:10～14:30 基調講演① 「世界農業遺産とは? 日本における世界農業遺産の取組みについて」

永田 明 (国連大学サステイナビリティ高等研究所 シニア・プログラム・コーディネーター)

14:30～14:50 基調講演② 「傾斜地農耕システムの特徴と可能性」

内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

14:50～15:10 基調講演③ 「文化遺産を活用した観光まちづくり」

山 泰幸 (関西学院大学 人間福祉学部 教授)

15:10～15:30 休憩

【第2部】

15:30～16:30 パネルトーク

「世界農業遺産候補地としての可能性」

コーディネーター: 内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

パネリスト: 永田 明 (国連大学サステイナビリティ高等研究所 シニア・プログラム・コーディネーター),

山 泰幸 (関西学院大学 人間福祉学部 教授), 出尾 宏二 (一般社団法人 そらの郷 次長),

篠原 尚志 (つるぎ町校場 商工観光課 課長)

世界農業遺産とは、世界的に重要な農業システムを国際連合食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。にし阿波の山間部で暮らす人びとは、急傾斜地で暮らしていくための様々な知恵や技術を培ってきました。このシンポジウムでは、世界農業遺産登録を目指しておこなってきた、にし阿波のとりくみについてご紹介するとともに、このとりくみを通じてにし阿波が世界とつながるための課題や可能性について考えます。



アクセス

つるぎ町校場駅「つるぎ町農業改善センター」
【公共交通機関】JR徳島線 徳島駅下車 東へ約 300 m
【車】吉野川沿道徳島自動車道 徳島ICから国道 438 号を南へ約 3 km
→ 一般道沿い→ 一般国道 192 号から国道 438 号を南へ約 500 m

お問い合わせ

徳島県観光部つるぎ町観光交流課 1-3
つるぎ町校場 商工観光課
TEL 0883-62-3111 FAX 0883-55-1051
syokou@town.tokushima-tsurugi.jp



【主催】徳島大学、徳島県剣山世界農業遺産推進協議会 【共催】つるぎ町

にし阿波を世界農業遺産にする

～世界遺産観光による地域づくりの可能性～

2015.3/6 金 14:00～(受付:13:30)

会場:つるぎ町農業改善センター3階

世界農業遺産とは、地域で培われた伝統的な農業とそれに関わる文化・景観・生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。古くは「ソラ」とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには傾斜30度以上にもなる急傾斜地で農業を営み、豊かな生態系を守るための様々な知恵や技術を培ってきました。こうした厳しい環境で育まれてきた知恵をまもり、次の世代に伝えるとともに、世界に紹介することは、人口爆発に直面している人類の自給的な食料生産という課題解決にも寄与すると考えられます。このシンポジウムでは、世界農業遺産登録を目指しておこなってきたにし阿波のとくみについてご紹介するとともに、研究者や実務家とともにこのとくみを通じてにし阿波が観光や国際貢献分野において世界と繋がるための課題や可能性について考えます。



永田 明

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)において、世界農業遺産(GIAHS)に関する研究をはじめ、開発途上国の若手農業研究者の研修事業、東南アジアの海岸林保全研究、持続的森林再生保全研究などのコーディネーターを担当。1979年農林水産省に入省、インドネシア農業省アドバイザー、岡山市農林部長、農林水産省農林水産技術会議事務局技術情報室長、農村振興局資源課長、同農村環境課長などを歴任。2011年から現職、北海道大学農学部卒。

(国連大学サステナビリティ高等研究所 シニア・プログラム・コーディネーター)



内藤 直樹

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士(地域研究)。国立民族学博物館を経て、現在は徳島大学総合科学部准教授。ケニア・ウガンダ・南スーダン・ソマリアの牧畜社会を対象に、地域で培われてきた知恵、わざ、価値観等にそくした開発・平和構築・難民支援のあり方に関する研究をおこなってきた。著書に『社会的包摂/排除の人類学:開発・難民・福祉』(共著)、『メディアのフィールドワーク』(共著)などがある。

(徳島大学 総合科学部 准教授)



山 泰幸

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。関西学院大学社会学部准教授等を経て、現在、関西学院大学人間福祉学部教授。社会学博士。関西学院大学観光学・まちづくり研究センター長を兼務。地域の自然と文化を活かしたまちづくりに関する研究をしている。著書に、『文化遺産の社会学』(共著)、『文化遺産と現代』(共著)など。

(関西学院大学 人間福祉学部 教授)



出尾 宏二

国内旅行の造成、販売、販売促進に関わる。平成20年、にし阿波観光圏の認定に関わる。現在は、「一般社団法人そらの郷」事務局次長として、体感プログラムや着地型旅行商品の開発を観光圏事業の観光地域づくりマネージャーとして活動中。観光圏推進協議会副会長、観光立国のための成長戦略「アクションプログラム2014」に掲げる、世界に通用する魅力ある地域づくりを観光圏の枠組みを活用して観光庁と連携したブランド観光地域の確立に向けて活動中。

(一般社団法人 そらの郷 次長)



篠原 尚志

現つるぎ町商工観光課長。平成26年7月、美馬市・三好市・東みよし町・つるぎ町のエリアによる徳島剣山世界農業遺産推進協議会の設立とともに同事務局長を兼ねる。

(つるぎ町役場 商工観光課 課長)



アクセス

つるぎ町役場隣接「つるぎ町農業改善センター」
【公共交通機関】・JR徳島線 貞光駅下車 東へ約 300 m
【車】・自動車道利用:徳島自動車道 美馬ICから国道 438 号を南へ約 3 km
・一般道利用:一般国道 192 号から国道 438 号南へ約 500 m

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3 つるぎ町役場 商工観光課
TEL 0883-62-3111 FAX 0883-55-1051
syoukou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp

世界農業遺産
徳島・剣山の傾斜地農耕システム
をめざす

GIAHS
GLOBALLY
IMPORTANT AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS